

津大豆ニュース ～平成28年産第1報～

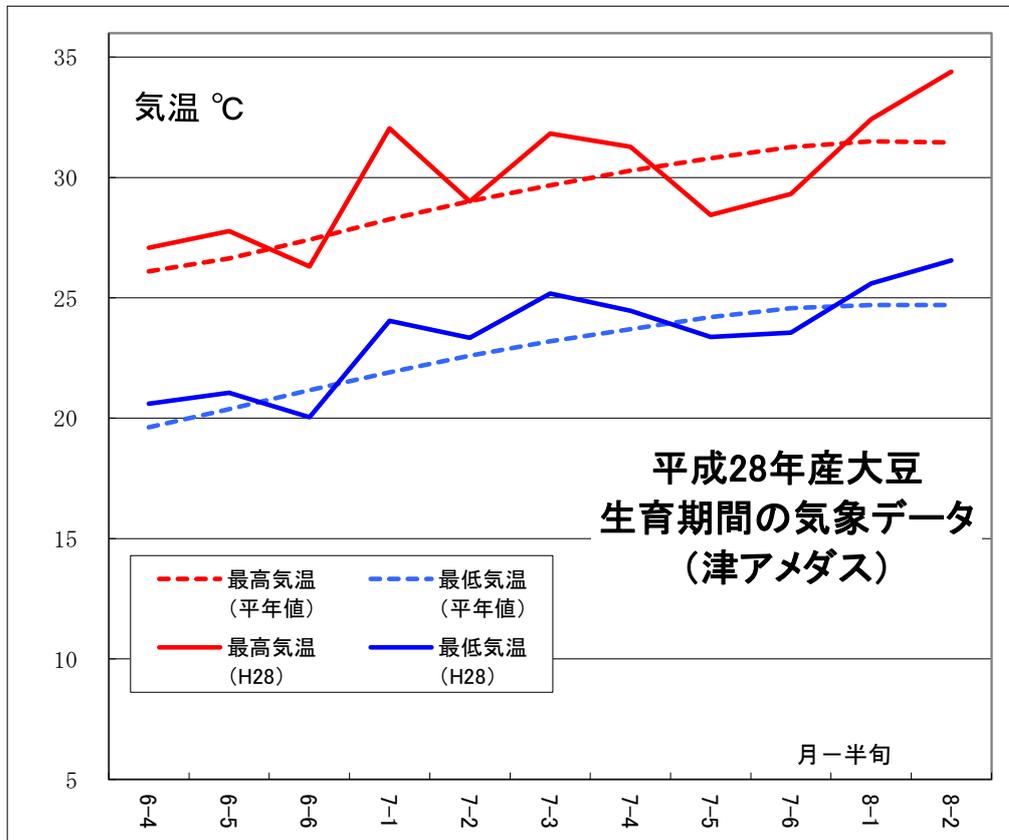
平成28年8月10日

津地域農業改良普及センター TEL：059-223-5103

気象経過

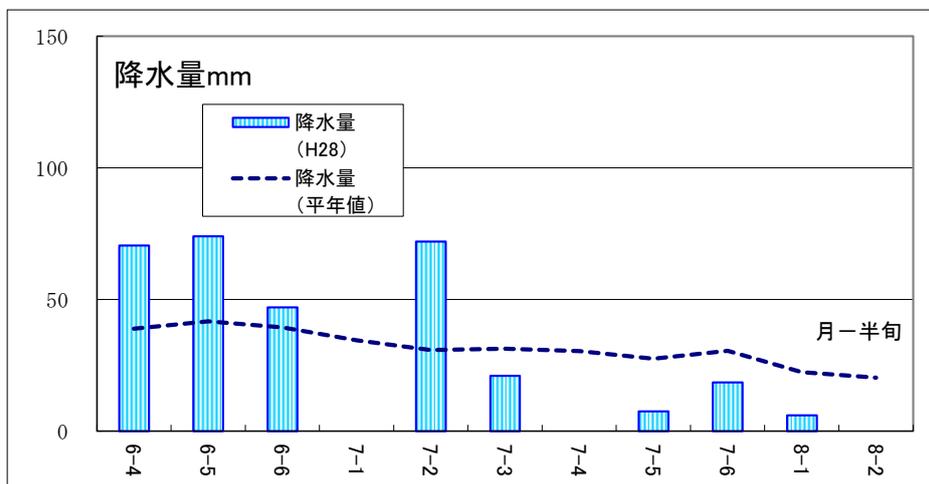
気温

6月下旬から7月中旬にかけては平年よりやや高くなりました。7月下旬に一時的に低くなりましたが、8月に入ってから平年よりやや高い傾向で推移しています。



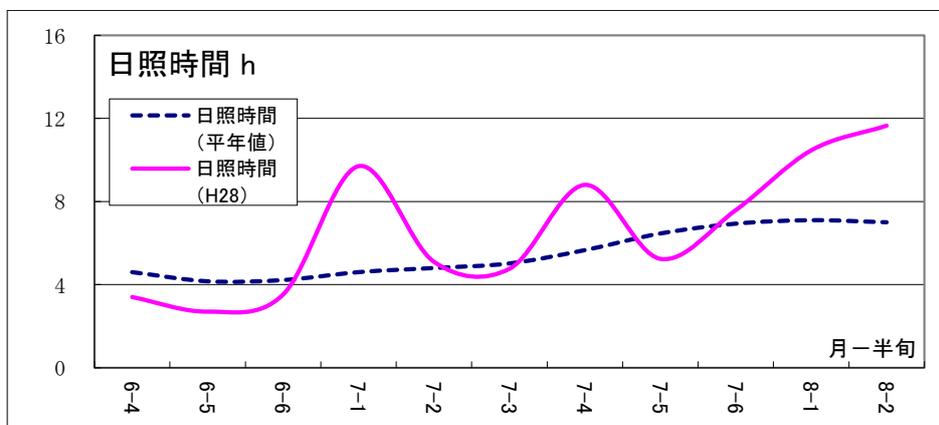
降水量

6月下旬までは、降水量は多くなりましたが、7月以降少雨となっています。7月の降水量は、平年の約60%、8月に入ってから平年の約2%となっています。



日照時間

6月下旬は雨の日が多く、日照時間は平年を下回りましたが、7月以降晴天の日が多かったことから、平年を上回っています。



生育状況

播種

7月以降、降雨が少なかったため、管内の播種は順調に進み、概ね8月上旬には完了しました。

生育状況

降雨が少なかったため、生育は順調に進んでいます。7月9日にまとまった降雨があったため、直前に播種されたほ場では、苗立ち不良がみられました。しかし、湿害対策（小明渠浅耕同時播種、種子処理剤の使用等）が行われている場合は、苗立ち不良が少ない傾向がありました。

また、生育が進んだほ場では、順次中耕作業も進められています。7月以降降雨が少ないため、干害の兆候がみられるほ場もあります。

雑草発生状況

一部で、帰化アサガオ類等が蔓延しており、除草剤散布等緊急の対応が必要となっています。

病害虫発生状況

現在のところ、目立った病害虫の発生はありません。今後、稲刈りの進行とともに、カメムシ類がダイズに移ることが予想されます。

○生育基準ほの生育調査結果

【平成28年8月2日現在】

品種	調査地点	播種日	草丈 (cm)	分枝数 (本)	主茎葉数 (L)
フクユタカ	一志町	7月4日	41	0	6.7

今後の管理

雑草管理

帰化アサガオ類、ホオズキ類等の強害雑草の発生が増加しています。これらの強害雑草は、生育旺盛で、ダイズを覆い、生育を阻害する原因となります。また、収穫の際に子実が汚れたり、収穫物に雑草種子が混入して品質低下等の原因となりますので、早期の防除が重要です。特に、ダイズが株間・畝間を覆うまでは、発生に注意が必要です。

<雑草防除対策> ～体系防除が効果的です～

- ① 土壌処理・・・エコトップ乳剤等
- ② 雑草茎葉散布・・・大豆バサグラン液剤(※)等
- ③ 中耕
- ④ 畝間処理（吊り下げノズル等を使用）・・・バスタ液剤

※大豆バサグラン液剤は薬害を発生する場合がありますので注意が必要です。

病虫害対策

今後、ほ場において吸汁性カメムシ類およびハスモンヨトウの発生が増加することが予想されます。吸汁性カメムシ類は大豆の子実を吸汁し、奇形粒の発生や不稔等の原因となります。被害は、適期に薬剤散布による防除を行うことで抑えられます（9月中旬と10月上旬の2回防除を行うと効果的です）。ハスモンヨトウは若齢幼虫のうちに薬剤防除を行いましょう。

中耕培土

中耕は、播種後初生葉が展開したときに、逆転ロータリーを条間にかけることで雑草の初期発生がおさえられます。中耕・培土は雑草防除、排水性の向上、根の活性化、倒伏防止に効果があります。開花までに2回以上行くと効果的です。

1回目：播種後15～20日（本葉2～3葉期）、子葉が隠れる程度



2回目：播種後22日～27日、初生葉が隠れる程度



生育予測

○大豆生育予測 【平成28年8月9日現在】

品種	播種日	開花期 (平年との差)
フクユタカ	7月1日	8月18日 (1.2日早い)
	7月15日	8月26日 (1.7日早い)
	7月30日	9月5日 (1.7日早い)

※三重県農業研究所作成の生育予測システムVer9.2による予測です。

気象庁アメダス観測地点データ(直近10ヶ年の平均気温)を使用しています。